

[成果情報名]イチゴ「ゆめのか」の不時出蕾株における暗黒低温処理効果

[要約]イチゴ「ゆめのか」は、「さちのか」より育苗時の不時出蕾が発生しやすい。不時出蕾株を暗黒低温処理しても花芽分化、出蕾、開花、収穫開始に影響はなく、不時出蕾未発生株と同等以上の年内収量を確保できる。

[キーワード]イチゴ、ゆめのか、暗黒低温処理、不時出蕾

[担当]長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・野菜研究室

[連絡先](代表) 0957-26-3330

[区分]野菜

[分類]指導

[作成年度]2014年度

[背景・ねらい]

長崎県の主要園芸品目であるイチゴは、「さちのか」から多収性の「ゆめのか」への転換を図っている。「ゆめのか」は収量性に優れるが、頂花房の花芽分化が「さちのか」以上に遅く、年内収量確保が難しいため、8月下旬処理開始の暗黒低温処理により頂花房の安定した花芽促進効果が得られることを明らかにし(2012 成果情報)、県内の主要な作型として普及している。

「ゆめのか」は「さちのか」より親株からのランナー発生が遅いうえ、不時出蕾株も多い傾向にある。生産現場では不時出蕾株を別管理する場合もあるが、不時出蕾株も暗黒低温処理しなければ苗の確保が難しくなることが想定される。

そこで「ゆめのか」の育苗期における不時出蕾株における暗黒低温処理効果を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「ゆめのか」は「さちのか」より育苗期の不時出蕾が発生する割合が高い(表1)。
2. 「ゆめのか」の不時出蕾発生株と未発生株を暗黒低温処理した場合、頂花房の花芽分化は同等で推移する(図1)。また、定植後の出蕾、開花、収穫開始も遅れることなく、年内収量も同等以上を確保できる(表2)。

[成果の活用面・留意点]

1. 「ゆめのか」の暗黒低温処理における処理苗の条件として活用できる。
2. 2014年は、普通ポット育苗の花芽分化が平年より、3～5日早い条件での試験結果である。
3. 暗黒低温処理は冷蔵施設の温度を15℃、湿度を80%に設定し、処理した結果である。
4. 「ゆめのか」の不時出蕾した苗の心止まり発生率は1%未満であった(データ省略)。
5. 不時出蕾した苗は、できるだけ速やかに果梗枝を除去し、心止まり株の発生を少なくする。

[具体的データ]

表1 品種別育苗期における不時出蕾の発生率 (2014年8月8日調査)

	調査株数	不時出蕾株数	不時出蕾率(%)
ゆめのか	200	41	21
さちのか	200	13	7
有意差			**

※**ピアソンのカイ二乗検定により 1%水準で有意差あり

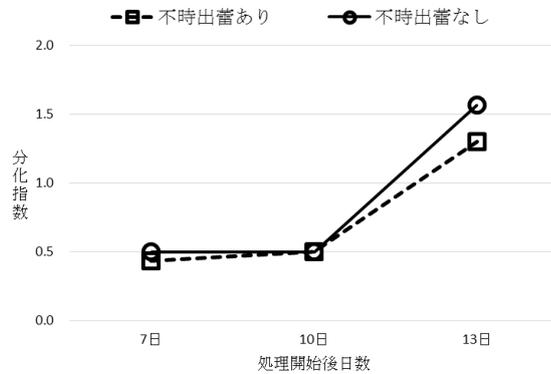


図1 イチゴ「ゆめのか」の暗黒低温処理における不時出蕾の有無による頂花房花芽分化の推移

表2 イチゴ「ゆめのか」の暗黒低温処理における不時出蕾の有無による定植後の出蕾日及び開花日、収穫開始日、年内収量

供試苗	出蕾日	開花日	収穫開始日	年内収量 kg/a
不時出蕾あり	10/10±1	10/22±1	11/23±2	81(114)
不時出蕾なし	10/11±1	10/24±1	11/25±1	71(100)

※±は95%信頼区間の幅、()内数字は不時出蕾なしを100%とした比率(%)

○耕種概要

育苗—高設雨除け育苗、2014年6月10日ランナー切り離し、施肥量N-200mg/株

暗黒低温処理期間：2014年8月26日～9月9日

本圃—地床、施肥量N-10kg/10a、定植日：2014年9月10日

[その他]

研究課題名：イチゴ次期有望品種「ゆめのか」の安定生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2013～2015年度

研究担当者：前田 衡